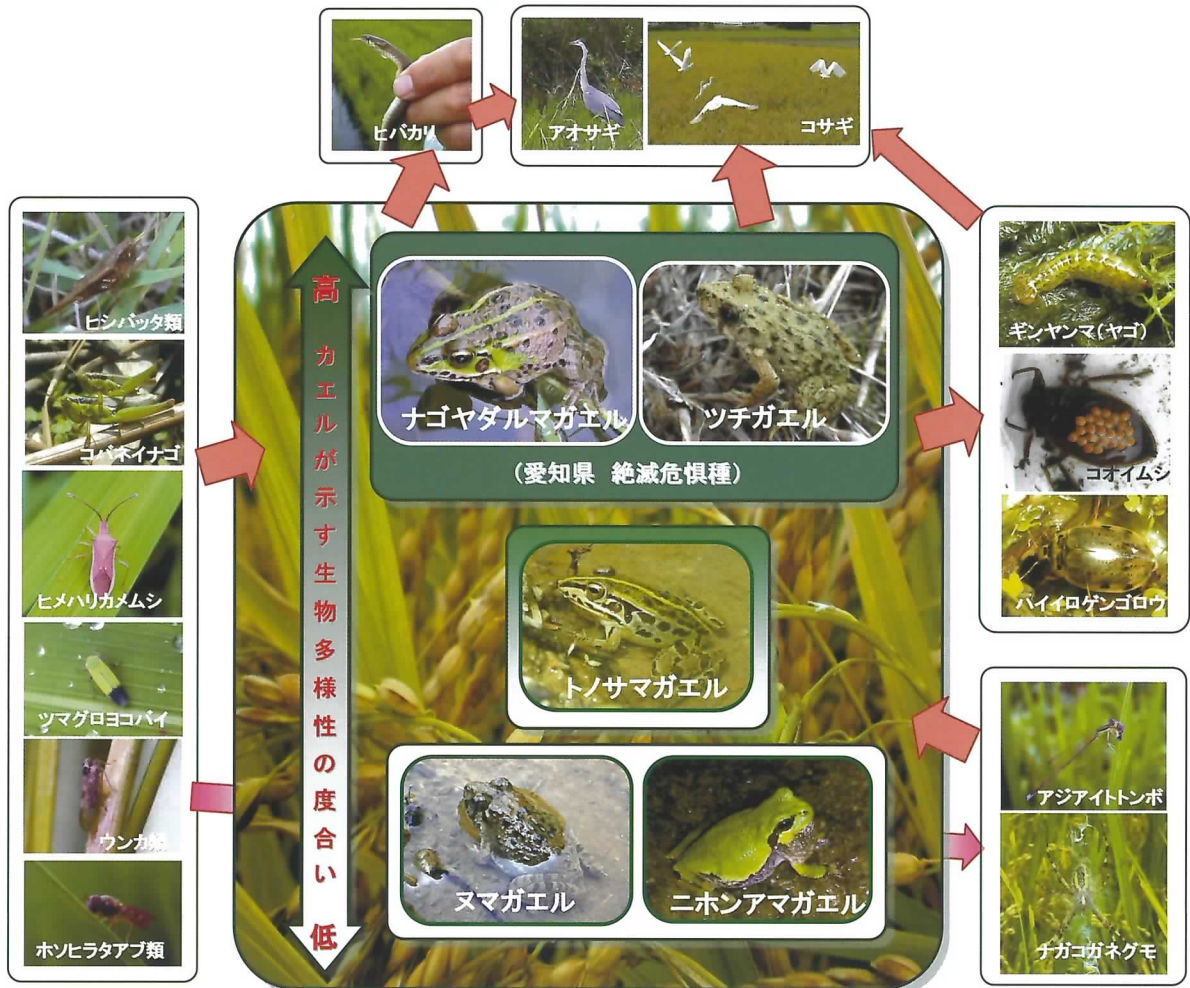




水田の生物多様性の指標となる ナゴヤダルマガエル、ツチガエル

Frogs as a biodiversity indicator inhabiting paddy field in Aichi plains



カエルを中心とした食物連鎖と、愛知県平坦部水田に棲むカエルの指標性

愛知県平坦部の水田における生物多様性の指標種として、ナゴヤダルマガエルとツチガエルを選定しました。

指標種の2種が棲(す)む水田には、ニホンアマガエル、ヌマガエル、トノサマガエルも棲んでいます。カエルは、成体が多様な小昆虫を餌とし、幼生(オタマジャクシ)・成体がともに肉食性の昆虫、へビ、鳥類などの餌

となる「食物連鎖の要」です。カエルの種によって、餌とする生物、捕食される生物が異なることから、多様なカエルが棲む水田には、多様な食物連鎖が存在すると考えられます。

指標種に着目することで、水田の生物多様性の簡易な評価や、市民参加型の田んぼの生きもの調査への活用が期待されます。(作物研究部)

